

認知症透析患者との関わり

医療法人社団スマイル クレア焼山クリニック¹⁾
博愛クリニック²⁾ 広島大学病院腎臓内科³⁾

○福富 愛¹⁾ 大橋智恵¹⁾ 吉田純子¹⁾ 原田美香¹⁾
松下剛史¹⁾ 上森優子¹⁾ 桐林 慶¹⁾ 藤井恵子²⁾
高杉啓一郎²⁾ 正木崇生³⁾

当院の紹介

ベッド数43床

月水金：2クール

火木土：1クール

【患者】

女性：29名（平均年齢74.7歳）

男性：57名（平均年齢74.4歳）

【スタッフ】

【医師】：1名

（非常勤医師 複数名）

【看護師】：5名

【臨床工学技士】：3名

【看護助手】：1名

【医療事務】：2名



はじめに

現代社会の高齢化に伴い認知を有する透析患者が増加していくと予想される。認知症患者は、身体の不調・不快に由来するストレス等からBPSD（認知症の行動・心理症状）を生じやすくHD中の安静・安全保持が難しい傾向にあると考える。

今回、急激に症状が進行したレビー小体型認知症を既往に持つ維持透析患者への関わりを経験したので報告する。

症 例

患 者 : 60代、女性。透析歴16年、週3回4時間透析。

家族背景 : 夫、長女と3人暮らし（長男、独立している）

現病歴 : 2020年頃より、物忘れが出現

2021年、レビー小体型認知症と診断され

内服治療開始

症 状 : 記憶障害、遂行機能障害、認知機能障害

自宅での生活(様子)

- 起床、就寝時間はHD日、非HD日にかかわらずほぼ同じである
- テレビ鑑賞(8~10時間)
- 食事の支度は夫が行っているが、本人の気がむけば一緒に行く
- 夫と一緒に好んで買い物に行く
- 本人の必要な生活用品は目の届く所に出してある
- 就寝前、短時間の徘徊が頻繁にあるが行動範囲は自宅敷地内

来院時の問題行動

【HD前】	【HD中】	【HD後】
<ul style="list-style-type: none">• 体重測定を何回も行なおうとする• 何度もトイレへ行く• ベッドをまちがえる• 透析治療を受けずに帰ろうとする	<ul style="list-style-type: none">• ベッド上で急に立ち上がる• 血圧測定中にマンシエットを外そうとする• 頻繁にトイレへ行きたいと訴える	<ul style="list-style-type: none">• 迎えを待たずに1人で帰ろうとする• 毎回体重測定をせず帰宅しようとする (帰宅したこともある)

対応策

- 危険を一早く察知出来る位置へのベッド移動
- スタッフの目が届く時間帯に透析が完了出来る
開始時間への変更
- 抜針事故防止のためテープ固定の工夫
- 自宅での様子を夫より聴取
- レクリエーションの実施

実施した事	結 果
ぬり絵	1時間ほど集中して行う
折り紙、和飾り作り	鶴を折ると機嫌が良かったが折り始めると折り方を忘れて最後まで折ることができなかった
クロスワード (ひらがな3文字穴埋め)	縦と横の文字を同時に見ることができなかった
計算問題 足し算	1桁の計算は間違いなく早いですが2桁は難しい様子
計算問題 引き算	2桁はできなかった
計算問題 ひっ算	繰り上がり、繰り下がりができなかった
めいろ	何度も同じ行き止まりに行ってしまう
読書	数分で飽きてしまった
点つなぎ	1～10まで数えられるが繋ぐことができなかった
間違い探し	5個ある内2個をみつけたが途中でやめてしまった

全て小学校低学年程度の問題か絵を使用した

患者の実際の作品



輪飾り



ぬり絵



考 察

今回、認知症状の出現した患者の問題行動に対し様々な対策を講じた。中でも透析中の帰宅願望が強く、安全な透析が確保できない患者の関心をそらすためレクリエーションを取り入れたことは、レクリエーションに集中することがベッドから立ち上がる・マンシェットを外すなど、危険な体動の軽減につながった。

これは患者にレクリエーションを行うことへ注目してもらおうという「気持ちの転換」になったと考える。

今後も、本人の興味・関心が得られるレクリエーションを提案し個別性を大事に関わりを深めたい。

まとめ

透析中の安全確保には、レクリエーションが効果的であった。



中国腎不全研究会
COI開示

筆頭発表者名
福富 愛

演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業などはありません。